

## 報告 1

報告者：阿部博友（名古屋商科大学）

テーマ：「ESG 時代の国際取引法—新興国の視点—」

今回、台日学術交流シンポジウム「ESG 時代の国際取引法—役割と使命—」を、日本、欧州、台湾そして中国の研究者に報告をお願いして開催するにあたり、冒頭に新興国の視点を紹介したい。新興国においても、環境対応や人権デューデリジェンスなど、ESG 課題のソフトローからハードローへの進展がうかがえる。また、中南米や中東欧・中東・アフリカなどの新興国政府は、それぞれの資金ニーズを満たすため、新興国 ESG 債を活発に発行しているが、これら政府が、コミットメントの額面通りに、環境や社会の持続可能性に資する事業に資金を充当するかどうかは疑問視されている。財政難に苦しむ新興国政府にとって、多様な投資家を対象とした ESG 関連投資のアピールに注力しているが、その根底には自国の経済開発を優先する意向が伺われ、新興国 ESG 債の発行によって、本当にクライメートランジション（低炭素経済移行）が図れるか見定める必要がある。先進諸国とは異なる新興国の ESG の視点の検討を通じて、グローバル世界の課題としての環境や人権課題への対応のあり方を模索したい。